

13. 食品添加物の摂取量調査について

保健科学課 赤木 浩一

第 49 回全国衛生化学技術協議会年会

近年、食品の安全・安心について市民の関心が高まり、福岡市が行っている市政調査（約 600 人）では、毎年 30～40% の市民が食品添加物について特に不安と感じている。しかし、食品添加物の効用や毒性について詳しい知見を有している市民は少なく、実際に安全が確保されていても市民の安心につながっていないのが現状である。福岡市では、地域特性などを反映するために市独自に食品添加物の一日摂取量調査を実施した（平成 19 年：ソルビン酸，安息香酸及びパラオキシ安息香酸エステル類，平成 20 年：プロピレングリコール，平成 21 年：アセスルファミカリウム及びサッカリンナトリウム，平成 22 年：硝酸塩，平成 23 年：法定タール色素）。調査結果は、硝酸塩以外は、ADI 比 1% 程度であり、硝酸塩のほとんどは添加物由来ではなく野菜由来であった。福岡市では、地域・学校・公募等による食のリスクコミュニケーション事業を行っており、食品添加物の摂取量調査の結果も市民啓発に活用している。